

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ことばの教室ことは4号館			
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 10日 ~			令和7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 10日 ~			令和7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)	3
○訪問先施設評価実施期間	令和7年 2月 10日 ~			令和7年 2月 28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	9	(回答数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 5日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	様々な職種の職員が揃っており、情報共有をしながら評価、支援方法を模索することができる。	様々な職種からの専門的視点からフィードバックを行える。	支援開始前の打ち合わせをしっかりと行うことで連携を図り、よりよい支援を行えるようにする。
2	保育所等訪問支援と児童発達支援、放課後等デイサービスを併用していることから、学校生活と事業所での過ごし方を比較して評価することができる。	療育的視点と教育的視点を分けて考え、取り組める支援方法や対策を工夫している。	療育現場と教育現場で行える支援方法は異なることを理解し、支援を行う際に周囲への影響を考え、負担にならないように配慮する。
3	言語聴覚士の専門的な視点から訪問支援の実施もできる。	言語聴覚士が実際に訪問して、訪問先の先生方に直接支援や間接支援を実施している。	日々の療育の中で、言語聴覚士が実施している直接支援の方法や意図を共有したり、研修したりしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所では集団活動が少ないため、訪問先での集団活動の比較が難しい。	療育方針として個々の活動に重きを置いているため。	集団活動を短時間設けて比較できるようにする。
2	保育所等訪問支援利用希望に対して件数をこなせていよい。	保育所等訪問支援へ派遣する職員の人数を確保することが難しい。	訪問に行ける人数の確保と人材育成が必要。
3	保護者へ訪問先の様子で写真を交えて共有する事が難しい。	訪問先にて不特定多数の子ども達があり、個人情報の観点から写真撮影を行っていない。	訪問先の担当者と相談調整を行い、写真撮影の許可が出た際には当該児童以外は特定できない様に処理をしてご家族と共有できるよう検討する。